

## 社会科学習指導案

指導者 広島市立〇〇中学校  
教諭 〇〇 〇〇

- 1 日 時 平成27年11月〇日 (〇)
- 2 場 所 1年〇組教室
- 3 学 年 ・ 組 1年〇組
- 4 単元 (題材) 名 アフリカ州ーおもな生産品にたよる生活からの変化ー

### 5 単元 (題材) について

#### ○単元観

本単元は、中学校学習指導要領地理的分野「(1) 世界の様々な地域」の「ウ 世界の諸地域 世界の諸地域について、以下の (ア) から (カ) の各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けて、それぞれの州の地域的特色を理解させる。(ウ) アフリカ」を受けて設定したものである。

本単元では、「アフリカ州の豊かな面と貧しい面を整理し、今後のアフリカ州の展望を考えよう」という問いを立て、アフリカ諸国の主要生産品、主要国の経済状況と生産物、貿易の様子、主要生産品とアフリカに暮らす人々の生活との関連、旧宗主国などの先進国との結びつきなどを通して、19世紀からの植民地支配のなかで作られた「資源と市場の提供者としてのアフリカ州」という豊かさと貧しさの2つの面を合わせ持つアフリカ州の地域的特色を理解させたい。

#### ○生徒観

本学級の生徒は、小学校第6学年「世界の未来と日本の役割」の小単元において、アフリカの国々の中には紛争や貧しさが原因で困っている人がたくさんいることを学習している。また、今年度5月に国名を学習した際、アフリカ諸国の国境は、欧米諸国による植民地時代に、緯線・経線を利用して国境線をひいたため、直線的な国境線となっていることなどを学習している。

#### ○指導観

本時では、「独立を果たしたのにも関わらず、なぜアフリカ諸国は旧宗主国の言語を公用語としているのか理由を2つ以上説明しよう。」という中心課題を設定する。

まず、生徒に教科書や用語集をもとに自然、国名、歴史、言語などの基礎・基本的な知識を習得させていく。その際、4人グループで交流し、確認しながら取り混ぜることで、確実に知識を習得させたい。

さらに、その得た知識をもとに、「独立を果たしたのにも関わらず、なぜアフリカ諸国は旧宗主国の言語を公用語としているのか理由を2つ以上説明しよう。」という課題を考えていく。生徒は、この課題に対して、今まで得た知識や新たな資料を関連させながら考えることで、アフリカ諸国が旧宗主国の言語を公用語として使用している事実について多角的にとらえる力を高めていきたい。

また全体交流で発表する際には、以下の2点の工夫を行うことで、さらに思考を深めさせたい。

- ・ ホワイトボードを活用して発表用資料を作成させることで、思考や議論を視覚化し、自分の意見と比較・関連させやすくして、課題の解決に取り混ぜるようにする。
- ・ 教師による意図的指名や座席をコの字型で交流をさせることで、議論を活発にする。

## 6 単元（題材）の目標・評価規準

アフリカ諸国の主要生産品，主要国の経済状況と生産物，貿易の様子，主要生産品とアフリカ州に暮らす人々の生活との関連，旧宗主国などの先進国との結びつきなどを調べ，考えることを通して，19世紀からの植民地支配のなかで作られた「資源と市場の提供者としてのアフリカ州」という豊かさや貧しさの2つの面を合わせ持つアフリカ州の地域的特色を理解する。

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
● 豊かな資源を持つアフリカ諸国に，日本人としてどのような援助が望ましいのか関心を持つことができる。	● 19世紀からの植民地支配の中で作られた「資源と市場の提供者としてのアフリカ州」という豊かさや貧しさの2つの面を合わせ持つアフリカ州の地域的特色を表現できる。	● アフリカ州の農業と工業の特色や問題点を，様々な資料の関連付けから読み取ることができる。	● 広大なさばくを持つ自然，歴史，言語などの知識を身に付けている。

## 7 単元（題材）の指導と評価の計画（全4時間）

時間	学習活動	評価規準・評価方法			
		社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
1 (本時)	なぜ独立を果たしたのにも関わらず，旧宗主国の言語を公用語としているのか探求する。		アフリカ諸国は植民地から独立後も，公用語を旧宗主国の言語としていることを説明できる。 ・ワークシート		広大なさばくを持つ自然，歴史，言語などの知識を身に付けている。 ・発言・ノート ・第4回定期試験
2	なぜ豊かな資源があるのにも関わらず，アフリカ州は経済的に不安定なのか調べ，考える。		アフリカ州の地域的特色について，経済の視点を基に多角的に考察している。 ・ワークシート	アフリカの農業と工業の特色や問題点を，様々な資料の関連付けから読み取ることができる。 ・ワークシート	
3	アフリカの自立のための援助として，日本が行うべき方法はどれが望ましいのか判断する。	豊かな資源を持つアフリカに日本人としてどのような援助が望ましいのか関心を持つことができる。 ・ワークシート			
4	アフリカ州の豊かな面と貧しい面の2つの面を整理し，今後のアフリカ州の展望を考える。		19世紀からの植民地支配の中で作られた「資源と市場の提供者としてのアフリカ州」という豊かさや貧しさの2つの面を合わせ持つアフリカ州の地域的特色を表現できる。 ・ワークシート		

## 8 本時について

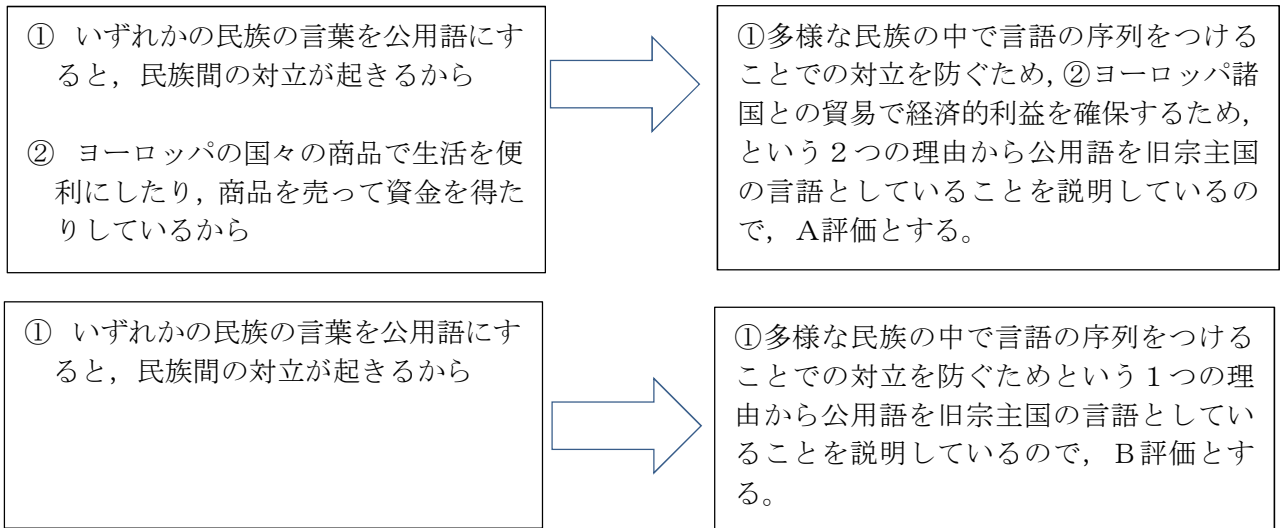
### (1) 目標

アフリカ諸国は、独立を果たしたにも関わらず、旧宗主国の言語を公用語としていることについて、①多様な民族の中で言語の序列をつけることによる対立を防ぐため、②ヨーロッパ諸国との貿易で経済的利益を確保するため、という2つの理由のいずれかを理解し、理由を加えて説明することができる。

### (2) 評価規準

観 点	評価規準	具体的な生徒の姿	
社会的な 思考・判断・表現	アフリカ諸国は植民地から独立後も、公用語を旧宗主国の言語としていることを説明できる。	A	アフリカ諸国が公用語として、旧宗主国の言語としていることを、理由を2つ以上加えて説明できる。
		B	アフリカ諸国が公用語として、旧宗主国の言語としていることを、理由を加えて説明できる。

### (3) 評価例



### (4) 準備物

教科書、ワークシート、ノート、用語集、自作資料、映像資料、ホワイトボード、マーカー、TV

(5) 学習過程

	学習活動	指導上の留意点	評価
導入	<p>○教科書 P.65-67 を読み、学んだところにマーカーでラインを引く。</p> <p>○アフリカ諸国が旧宗主国の言語を公用語としていることとアフリカ諸国は植民地から独立を果たしたことについて理解する。</p> <p>○本時の課題を知る。</p>	<p>・生徒の気づきをつなぎ、ゆさぶりながら課題を提示することで、生徒が考えたい課題にしていく。</p>	
	<p>独立を果たしたのにも関わらず、なぜアフリカ諸国は旧宗主国の言語を公用語としているのか理由を2つ以上説明しよう。</p>		
展開	<p>○教科書 P.65-67 を読み、自然・歴史・文化をワークシートに記述する。</p> <p>《グループ交流》</p> <p>○資料や他の生徒の考えを参考に、本時の課題を考え、ホワイトボードやワークシートに記述する。</p> <p>《全体交流・グループ交流》</p>	<p>・ワークシートに記述できていない生徒は記述できている生徒につなぐ。</p> <p>・思考が深まっていない生徒は資料を示したり、深まっている生徒につないだりする。</p> <p>・考えが伝わるように、図式化してホワイトボードに記述させる。</p>	<p>広大なさばくを持つ自然、歴史、言語などの知識を身に付けている。【知識・理解】</p> <p>アフリカ諸国は植民地から独立後も、公用語を旧宗主国の言語としていることの原因を説明できる。【思考・判断・表現】</p>
	<p>①多様な民族の中で言語の序列をつけることによる対立を防ぐため</p> <p>②ヨーロッパ諸国との貿易で経済的利益を確保するため</p>		
	<p>○発表された考えを参考に、再度、ワークシートに記述する。</p>		
まとめ	<p>○学習を振り返り、学んだことをノートにまとめる。</p>	<p>・理解できたことと理解できなかったことや追求したいことを記述させる。</p>	

(6) 板書計画

<p>【アフリカ州をながめて】 P65～67</p> <p>1 山脈（茶）・さばく（黄）・川（青）を色塗り、自然や歴史を理解しよう</p> <p>◎ なぜ独立を果たしたのにも関わらず、アフリカ諸国は旧宗主国の言語を公用語としているのか理由を2つ以上説明しよう。</p>						
貿易で有利	貿易で有利	貿易で有利	貿易で有利	対立を防ぐ	植民地だったから	
貿易で有利	貿易で有利	貿易で有利				